

# タウンリーⅡ サイクル劇 (Ⅲ)

橋 本 侃

## 第三演目 ノア<sup>①</sup> (のあと息子たち) (前編)

〈写本左七頁〉

〔登場人物 ノア、神、ノアの女房、長男とその妻、次男とその妻、三男とその妻〕

(1)

ノア まことに力にあふれる神よ、

今あるものすべてを造られた方よ、

疑いもなく、三位が一体であり、

終わりのない無上の喜びにある唯一の神よ、

あなたは昼と夜の両方を造られた、

毛物も、鳥も、魚も。

命あるすべての被造物を

希望されたとおりに造られた――

巧みにおできになった。

太陽を、月を、

お造りになった。天空を、

燃え盛る星もまた、

光り輝くようにと造られた。

(2)

なるほど確かに、天使たちを造られ、

今あるすべての階位<sup>(2)</sup>に、

天の栄光を持たせた。

これらのことをすべてされたのは、

語るにも不可思議なことです。

しかし、自然にもとることがあ<sup>(3)</sup>った、

七倍<sup>(4)</sup>以上にも、

わしが上手に表現することができる以上に。

なぜなら、

輝きの中にあるすべての天使のうちで

神はルチフェル<sup>(5)</sup>に一番の輝きを与えた。

しかし、自分が座るべき席を傲慢<sup>(6)</sup>にも動かし、  
神の傍に自分自身を据えたのだ。

(3)

奴は自分が高貴な者であると考えた、

造ってくれた方と同じように、

輝きにおいても、美しさにおいても。

それゆえ、あの方は奴の位を下げ、

低い階級に据えた。

その後直ぐに、またたく内に、

奴と奴の家来たちを、

奴が惨めであるだろう場所に据えた、

永遠に。

奴らは決して逃げ出さないだろう、

その時から最後の審判の日まで。

その代わり、苦しみのうちに永遠に焼かれるだろう。  
その場所から決して去ることはないだろう。

(4)

恵み深い主は、その後直ぐに  
主の似姿に合わせて人間を造られた、  
あの階位を取り戻すために、  
初めにされたのと同じように。

三位一体に合わせて、  
アダムと、あの女エバを、  
必ず同意を得てから子孫を増やすように、  
二人を楽園に置かれた。

その後になり、兩人に向かって  
掟を下された、

命の木に手を触れぬようにと。  
ところが、それにも関わらず、悪魔の奴は  
あの方が人間に怒りを向けるようにしむけ、

(5)

人間を大食い of 罪に誘い込み、  
傲慢の罪を犯すようにそそのかし、  
双方を楽園において、

どのような罪でも平気に犯させた。

それゆえ、人間はすぐさま、

その時、

苦しみと惨めさのなかに置かれ、

つらい苦痛のなかで、

そのひどさを知るため――

最初は地上で、次には地獄で、

悪魔どもと一緒にとどまるように、と。

しかし、あの方は慈愛を明らかにされた、

信じる人たちには。

(6)

あの方は「われらを慈愛の油と呼ばれた」、  
と人が読むのを聞いたことがある、  
生きている一人ひとりの人に

あの方を愛し、恐れる者に向かって。

しかし、今や、あの方の目の前で

生きている一人ひとりの人は

昼と夜の大部分を、

言葉と行いにおいて罪を犯している、

大胆にも――

ある者は傲慢と怒りと妬みにおいて、

ある者は貪欲と大食いにおいて、

ある者は怠けと色好み、

そして、他の多くの罪を、犯している。

(7)

それゆえに、わたしは恐ろしいのだ

神がわれらに復讐をするのではないかと。

なぜなら、罪は今や惨めな状態にある、

どのような悔い改めもなく。

六百余年も

わしは、紛れもなく、

土くれのように、地上で、

大きな惨めさをもって生きてきた、

いつもだ。

そして、今年をとり、

病気持ちで、悲しくて、体も冷たくなっている。

地面の上の糞のように、

しなびてゆくばかりだ。

(8)

しかし、それでも、大声を出して

慈愛を求め、呼ばわろう――

「わたしはあなたの従者のノアです、

どこにでもおられる主よ！」

そえゆえ、わしとわしの子供たちは

わしと一緒にくず折れる運命です。

悪行からわたし救い、

お連れください

天のあなたの広間に、

そして、わたしを守ってください

この世の罪から。

人類の美しい王よ、

あなたに向かって祈ります、わたしの声を聞いてください！

(9)

神 生きている

すべてのものを造ってこのかた、

公国の君主と帝王と王を、

わたし自身の手で――

かれらを喜ばすために、

海路と砂漠を通して、

わたしの命令に従って、すべての者が

従順に従うべきだ、

切に望んで、

人間をそのような被造物として造った者にたいして、

好むもののうちでもっとも美しいものに。

人間はわたしを情熱を込めて愛さなくてはならない、



当然のことながら、そして、悔い改めなくてはならないから。

(10)

人間にたいして愛を示したものと思っていた、

人間を造った時に、

天上にいるすべての天使よりも、

三位一体に似せて。

それが今や、大きく非難されて

人間は身を低くして横たわっている、

地上で自分の欲望を満足させるために、

わたしを喜ばせることのない罪に、

そのほとんどが。

復讐をするつもりだ

地上の罪のために。

かくして、わたしの怒りを目覚めさせよう、

大きいのも小さいのも両方を。

(11)

わたしはひどく悔いている――

人間をそもそも造ったことを。

人間はわたしになんの蓄えもあてがってくれない。

それなのに、わたしが人間の支配者なのだ。

それゆえ、人間を消してしまうつもりだ、

毛物も男も女も。

身分の上下に関わらず、すべての者を消してしまうつもりだ。

あの取引契約を呪うかもしれない、

悪がなされたと。

地上には、実際になにも見えない、

償われていない罪以外は。

善行をした者たちについては、

阿呆しか目につかない。

(12)

それゆえ、消してしまおう

この天と地獄の間のこの世のすべてを、

満ち溢れる洪水と

恐ろしい轟音をたてる雨によって。

わたしにはそのようにする十分な理由がある。

なぜなら、わたしを恐れる人間は誰もいない。

こうして口にはしているとおり、これからすることは――

復讐の剣を引き抜いて

おしまいにする、

命あるすべての者たちを消してしまおう、

ノアと妻を除いて。

なぜなら、二人はわたしにたいして一度もいさかいを

起こすつもりはなく、

それゆえ、わたしの氣に障ることはするつもりはない。

(13)

多くを得させるために

急いでゆくつもりだ、

終わりに至らせる前に、わたしの従者であるノアの所へ、

不幸を警告するために。

地上には罪の他は何も見えない、

あちこちにはびこっている。

身分の高い者も低い者も

互いに敵対している、

すべてはかれらの意思に従って。

すべての者を滅ぼそう

満ち溢れる洪水で。

すべての者に不幸をもたらそう

悔い改めるつもりのない者たちを。

(14)

わたしの友のノア、お前に命じる、

心配事からお前を守るために

一艘の船を造るように、

釘と板が上等のものを。

お前はいつも従順であった、

鋼鉄のようにわたしに誠実であった、

わたしの戒律にすなおに従った。

友情を感じてくれるだろう、

褒美として。

お前の造る船の長さは

注意して三百キュービット<sup>(1)</sup>にするように。

高さは三十キュービット、

幅は五十キュービットになるように。

船にはピッチとタールを塗りなさい、

外側と内側にも、

水を外へ締め出すために――

これは高尚な工夫である。

誰にも邪魔させないように気をつけなさい。

三段重ねの部屋から始めなさい。

たくさん木材を費やさなくてはならない、

この仕事をやり遂げるまで、

しっかり仕上げをするためには。

船の中に、同じように、

一つか二つの私室を造り、

それ以上の数の畜舎を造れ、

そこにいれるはずの毛物たちのために。

## (15)

一キュービットの高さに

窓を一つ造るのだ。

腕をふるって、片側に戸口を一つ

下方に造るのだ。

誰もお前と喧嘩をさせぬように、

親類の一人でもがお前を傷つけることのないように。

すべてのことが正しく行われた時に、

お前の配偶者である妻を

船の中にいるお前の所に引き入れよ。

良い評判の息子たち、

セムとヤペテとハムを

同じように家の中に引き入れよ、

妻たちの三人も。

## (16)

なぜなら、すべての者を滅ぼす

陸地に住む者たちを、お前たち以外の者たちを、

上から降り注ぐ洪水によって、

それも大変な量の洪水で。

直ぐにでも降り始めよう、

直ちに、

七日が経った後で。

四十日の間、降り続ける、

間違いなく。

同じように、船に連れてゆきなさい

一種類の毛物を二匹、

雄と雌を、だが、それ以上はいらぬ、

船の帆を揚げる前に。

(17)

なぜなら、それらの毛物はお前の役に立つかもしれない

これらのことすべてが仕上がった時に。

船に食料を詰め込め、

空腹でお前たちが減びることのないように。

毛物と鳥と動物たち――

それらについてはお前の考えの中にあるだろうが――  
わたしの忠告は、それらのためになる

いくらかの助けを求められるように、

急いで。

穀物と干草がぜひとも食べさせねばならないし、

他の動物には肉を常時食べさせねばならない。

さあ、お前に言ったとおりのことをしなさい、

聖霊の御名において。

(18)

ノア ああ、ワタシタチニ祝福ヲ！

あなたは何なのですか、

これから起こることをこのように前もって口にするとは？

あなたは不思議な方だ！

わたしに語ってください、どうぞ神の慈愛にかけて、

あなたのありがたいお名前を。

神 わたしの名前は気高さのあるもの、

光栄に満ちたものである、



それを知れば。

わたしはもっとも力ある神、

三位一体のうちの一位の神、

お前と一人ひとりの人間を存在させるために造った――

わたしをよく愛すべきである。

(19)

ノア そのように親愛なる主であるあなたに感謝します、

そのようなことまでしてくださる方、

このように低いところに現れることを

ありふれた生まれの卑しい者の前に。

この場で、主よ、わたしたちを祝福してください

慈愛を乞い求めます――

さすれば、それだけ余計にうまくゆきます、

われらが所有することになる船の舵取りも、

確かに。

神 ノアよ、お前とお前の子供たちに

わたしに祝福を与える。

お前たちは育ちに育ち、数を増やし、  
地上に満ち溢れよ、再び、

## (20)

この洪水がすべて過ぎて、  
すっかり終わってしまった時に。

ノア 主よ、急いで家路に向かいます、  
できうるかぎり急いで。

家内に尋ねてみます、  
なんと言うかを。

そして、わたしにはびくびくものなのですが、  
口げんかを少しばかりやらかします、  
わたしたち二人の間で。

なぜなら、家内はいつも不機嫌で、  
時には腹をたてます。

もしも事がうまくいかないと  
家内は直ぐにかっかとなります。「ココデ、妻ノ方ニ向カウ。」

## (21)

ご機嫌いかがかな、愛しい妻よ！

どんな具合だ？

妻 だが今は、うまい具合になりたいのだが、

あんたを見ると、ますます悪くなる。

直ぐに聞かせてよ、

こんなに長いことどこにいたのか？

急いで死ぬか、

生きるか、あんなのせいで、

物が足りないんだよ。

わたしら女房が汗をかくか、苦しむかしている時に、

自分が考えたことだけをあんたはするんだ。

だけど、食い物と飲み物は

ほんの少ししかない。

(22)

ノア 妻よ、困ったことになった、

新しい知らせがあるのだ。

妻 だが、あんなにはふさわしいのは

ぶんなぐられて青あざになることよ、<sup>(8)</sup>

あんたはいつも怖がっているからよ――

間違っているように正しいかは別にして。

だが、神様はご存知だ、わたしが生活していることを――

それについては、後悔してもいいかもしれない――

まったく悪い状態さ。

なぜなら、あんたを救おうとして

夕刻から朝方にかけて、

あんたは悲しみについていつも語ってくれる、

神があなたに一度にたっぷり送ってくれたらしいのに。

(23)

われら女は心配なのかもしれない、

悪い亭主のすべてを。

マリア様に掛けて言うが、わたしにも一人いる、

わたしを産褥の縛めから自由にくれた!<sup>(9)</sup>

亭主が苦しんだとしても、こっちはぐずぐずしてはならない、

現状がどうであれ、

非常に悲しい顔つきをして、

両方の手を絞<sup>(10)</sup>り、

心配事があるせいで。

しかしそれでも、他の時には、

遊びやら、たくらみやらで、

わたしは奴をぶったたき、微笑を浮かべ、

借りを返すつもりだ。

(24)

ノア なんたる！ 口を閉じろ、このくそったれめ<sup>(11)</sup>、

さもないと、静かにさせるぞ。

妻 もし、ぶったたくなら、これから無事でいたいので、

お前さんのほうへ体を向けてやろう。

ノア できるだけ早くやつつけてやる。

ジルよ、これでも喰らえ！

痛みが骨まで伝われ！

妻 ああ、そんなものかい！ マリア様に掛けて言うが、殴り方の悪いこと！

でも、考えてみるに、

あんたに借りなんぞ作らんからね、

こんな所で喧嘩なんかして。

その靴下留めの革紐を取って

お前の褌を締めたらいい！<sup>(12)</sup>

ノア ああ、そうさせたいか？

なんと、マリア様に掛けて言う、それはわしのだ！

妻 二つより三つをあんたにやろう、

神の痛みに掛けて、誓う。

ノア そうするなら報いてやろう、

真実込めて、さもなきや罪作りだ。

妻 なんたることを！

ノア 歯でかじったり、ぶつぶつ泣き言を言ってもいいんだぞ、

大きな声でわめきながら！

なぜなら、もしも奴が殴るのだったら、

それなら、素早く殴るに違いない。

誓って言うが、それに似たのなど知らない、

天と地獄の間のこの世で。

(25)

しかし、わしは慈愛深いよう――

わしにはすることがあるからだ。

妻 ここにはあんたを遅らせる人は誰もいない。

お願いだ、仕事を始めなさいな！

あんたをきつと懐かしく思うよ、

ずうっとわたしに平和があればいいくらいに。

糸を紡ぐ用意をしよう。

ノア そうかい！　じゃあ、さようならだ。

だが、妻よ、

わしのために熱心に祈ってくれ

お前の所にまた来よう。

妻 わたしに拝むようにして願うと同じに、

この身も無事ならいいが。

(26)

ノア 長いことぐずぐずしていた、

わしの仕事から。

さて、道具を携えて、

あっちへゆこう。

事がまずく運んでいるかもしれない、

本当のところを知ったら。

だが、神が繰り返して助けてくれるならば、

腰を下ろしてもいいわけだ、

馬鹿だと知られることになるかもしれない。

さてと、試してみよう、

大工としてどこまでできるかを、

〔十字を切りながら〕 神ト子ト

聖霊ノ御名ニオイテ。アーメン。

(27)

この木から始めるとなると、

わしの骨を曲げよう。

わしは信じる、三位一体の神から

助けが送られることを。

本当にいいことだとわしには思える、



この仕事がわしの手に託されたのは。

今こそ、祝福されますように、

この事の乱れを正す方が。

ほら、ご覧ください、これが長さです、

実際に、三百キュービット。

幅については、ご覧ください、五〇キュービット、

高さは実に三〇キュービットで、

これが全部の寸法だ。

(28)

さて、わしのガウンを脱いで、

ガウンの下のコートで働こう。

帆柱を造ろう、

一フィート次のへ動く前に。

ああ、わしの背中が、確かだ、壊れる！

これは痛ましい仕事だ！

わしが永らえているのが不思議だ。

そんなにも歳をとって、

すべてが衰えているのに、

このような仕事を始めるには。

わしの骨は硬い。

骨が痛いのも不思議はない、

なぜなら、わしは本当に年寄りだから。

(29)

檣楼と帆の両方を

わしが造ろう、

舵と船首楼も、

わしが造ろう。

一つ一つの釘を打ち込むことを

怠らないようにするつもりだ。

この大工道具は必ず役に立つだろう――

そのようにあえて自信を持って断言する、

いつかきっと。

これは気高い考案品である――

これらの釘は突き通る、

その多少に関わらず、  
これらの船板の一枚一枚を。

(30)

窓と扉、

神が言われたとおりに、

三段重ねの部屋、

その部屋はよく造られている。

ピッチとタールはしっかりと

その上に塗られている。

これは長持ちするだろう、

これについては満足している、

なぜなら、

よく造られている、

考えていた船よりも。

無からすべてをお造りになった方に

感謝を唯一捧げよう。

(31)

さて、急ごう、

少しも怠けてはいけない。

わしの家内と子供たちを

ここの場所に集めよう。

このわしの言うことを急いで聞かせよう、

妻よ、考えてみてくれ――

この場所からわれらは逃げなくてはならない、

みんなそろって一緒に、

それも、急いで。

「ノア」の前編はここで終わり、後編へと続く。

〔註〕

(1) 「創世記」6章1節～9章29節の劇化である。

(2) 神に一番近い最上級の位にあったルチフェルたちが天上から地獄に墮ちて悪魔となるまでは、天使は十階級に配置されていた。ルチフェルたちの墮落以降は九階級となり、それぞれが三階位に分かれた。第一階位の第一から第三階級の天使は熾天使 (Seraphim)、智天使 (Cherubim)、座天使 (Thrones)、第二階位の第一から第三階級の天使は主天使 (Dominations)、力天使 (Virtues)、能天使 (Powers)、第三階位の第一から第三階級の天使は権天使 (Principalities)、大天使 (Archangels) と天使 (Angels) である。第一階位は神の御座にはべり、神を賛美し、第二階位は星座や、「四元素 (Four Elements) Ⅱ 火 (Fire)・空気 (Air)・水 (Water)・土 (Earth)」を統率する。第三階位は、人

間界と接し、神の意思を遂行する。聖書に現れるガブリエル、ミカエル、ラファエルは大天使 (Archangels) である。

(3) 「自然の摂理に反する行為」、つまり、ルチフェルたちの謀反を指す。

(4) 数字の「七」は恩寵・聖霊・完全などを象徴し、「創世記」の洪水の場面 (7章2、4、10節、8章10、12節) において繰り返して用いられている。

(5) 「創世記」にはルチフェルたちの謀反の言及はない。「イザヤ書 (14章12節)」と「ルカ (10章18節)」を参照。

(6) 傲慢 (pride) は「七」の大罪 (The Seven Deadly Sins = Pride, Covetousness, Lust, Anger, Gluttony, Envy and Sloth) のうち最も重い罪である。エバが知恵の実を食べるのは大食 (Gluttony) ではなく、創造主の神が禁じた行為を被造物の人間が、「神のように善悪をするものとなる (『創世記3章5節』)」と蛇にそそのかされて行った「傲慢さ」の罪によるものである。本文75、78行を参照。

(7) 「キュービット」は肘から中指の先までの長さで、約45〜56センチメートルある。

(8) 原文は「スタッフォードの青い服を着る価値がある」で、意味は比喩的に、「青あざができるまで殴られて当然だ」となる。スタッフォードの町は中世時代、青布の産地として有名であった。イングランドには特定の色と結びついた町が少なくない。青はBeverley, Stanford, Coventry、緑はKendal, Lincoln、灰色はYorkなどと結び付けられている。

(9) 聖母マリアは安産を助け、産婦を守るという民間信仰があった。

(10) 「両方の手を絞り」は深い悲しみを表すしぐさ。

(11) ノア夫婦がする取っ組み合いの喧嘩を描くのはこのタウンリーとチェスターの2つのサイクル劇である。つむじ曲がりて頑迷なノアの女房は中世イングランド劇独自のものである。エバ同様に、女性の劣性と墮落をしめすものである。夫に服従せずに家庭の秩序や平和を乱す妻の像は中世の説教文学に頻繁に扱われ、ジェフリー・チョーサーの「粉屋の話 (I A, 3538行)」以降が有名である。

(12) ノアの女房は手近にあった革紐でノアを叩く。教会聖堂のミゼリコードには、この場面のように、男女の地位や立場の逆転を喜劇的に扱った彫刻がしばしば見られる。例えば、「布打ち鎚で夫を殴る女房 (Carlsle Cathedral)」、「糸巻き棒で男を打ちのめす女 (Westminster Abbey)」、「夫婦喧嘩で夫を殴る女 (Bristol Cathedral)」などが有名。